

園舎建替×認定こども園移行を検討している方向け

限定
20名

数億円の投資を成功させるための

認定こども園 現地視察セミナー



定員**175名**の認定こども園に必要な**給食室の広さ**とは！？



新園舎後年少充足率**100%超**
募集に困らず補助金も使える
空き教室の作り方とは！？



毎年採用人数**2名以上**！
キレイな園舎で**2年連続**
新卒5名採用を実現！



1, 2, 満3歳児の保育室
を合同にすることで年齢に合った保育が可能！



デッドスペースを活用した、**1, 2歳児用**の
ミニ園庭の活用！



課外教室専用出入口を2階にすることで、**園の戸締り**と**分離**することが可能！

このような方におすすめです

園舎建て替えを**絶対に**失敗したくない

これから先10年、20年**園児が集まる園舎**にしたい

幼稚園から認定こども園に移行して**成功している園**を見たい

1, 2歳児の預かりの始め方を事例を元に知りたい

園舎見学だけでなく、**認定こども園の制度**についても知りたい

建て替えたいが**誰に相談**していいかわからない

詳細は中面をご覧ください！

学校法人チルド学園

副園長 **岩井 学** 氏

愛知県名古屋市

【2024年度版】認定こども園移行現地視察セミナー

お問い合わせNo.S113597

主催



サステナブルグロースカンパニーをもっと。

Funai Soken

株式会社船井総合研究所 〒541-0041 大阪市中央区北浜4-4-10 船井総研大阪本社ビル

船井総研セミナー事務局

E-mail

seminar271@funaisoken.co.jp

当社ホームページからお申込みいただけます。(船井総研ホームページ[www.funaisoken.co.jp]右上検索窓に「お問い合わせNo.」を入力してください。)[113597]

※お問い合わせの際は「セミナータイトル・お問い合わせNO・お客様氏名」を明記の上、ご連絡ください

園舎建て替え×認定こども園移行で 年少充足率100%超を達成

学校法人チルド学園 岩井学氏のご紹介

愛知県名古屋市で認定こども園1園を運営している。岩井学氏は信州大学工学部電気電子工学科卒業、車載の電子基板設計に携わり、その際に新入社員教育やリクルート活動にも従事。祖母の病を転機に祖母が設立した学校法人チルド学園に入職。副園長に就任後は幼稚園からこども園に移行すると共に園舎を改築するなど、より良い保育環境の構築に尽力している。園舎建て替えに伴い幼稚園としての建て替えも検討していたが、相談していた設計会社からアドバイスを受け、認定こども園の補助金を活用する形で建て替えを実施。現在、1号認定：150名、2号：15名、3号：10名、合計：175名の園を運営しており、移行後平均年少充足率103%を達成。



学校法人チルド学園
副園長 岩井学 氏

たかばりこども園のココがすごい！

移行後年少平均充足率

100%超

3か年平均新卒見学者数

13名

年少児の内満3歳児が占める割合

40%

3か年入園希望見学者数

約**120**名

移行2年前～移行前年までの採用数

10名

教職員業務負担軽減施策

ICTのフル活用

入園説明会の実施頻度

年**12**回

認定こども園移行と同時に園舎建て替えを行った理由



旧園舎と新園舎

園舎老朽化に伴う建て替えの検討

園舎老朽化に伴い建て替えを検討している中で、**費用をどのように工面するか考えていました。**そのような中、依頼をしていた設計会社から提案されたのが、認定こども園移行による補助金を活用した園舎建て替えでした。とても**園の持ち出しのみでは建て替えることができる状況にはなかったため**、検討してみたところ、**認定こども園移行によって得られる補助金が追加される**ため、**補助金総額が増額**され、園の負担を減らすことができるため、認定こども園への移行を決意しました。

移行を決意した段階では、近隣には認定こども園が少なく、相談できる人も多くありませんでした。当園が地域の中でも比較的早く認定こども園に移行することを決意して、移行に向けて準備を開始しました。近隣園に認定こども園へ移行した事例が少ないことによる若干の不安はありましたが、

園舎建て替えが差し迫っていること

膨大な投資額の工面

等を考えた際に、他園の状況を気にしている場合ではないことに改めて気がつき、認定こども園移行を進めていくことを決めました。認定こども園移行による建て替えの補助金は、総工費に対して全額支給されるものではなく、利用定員に応じて一定の割合を支給される仕組みとなっております。

園児数減少 3クラスから2クラスに



園を運営する中で、これまで各学年3クラスずつ編成できていたにも関わらず、園児募集がうまくいかず、**2クラス編成になってしまった**年がありました。その時に、**従来の幼稚園を希望する家庭（専業主婦家庭等）のみを対象とする園経営では、この先園を永続的に経営していくことは難しい**のではないかと感じました。当園は愛知県名古屋市に位置しており、他市町村と比較すると幸いなことに人口減少が著しい地域ではありません。しかし、1クラス減少した現実には大変驚いたと同時に、**将来に対する大きな不安を感じました。**

認定こども園移行と同時に園舎建て替えを行った理由

無償化による保護者ニーズの変化



無償化が始まった2019年の翌々年2021年より、満3歳児の受け入れを開始しました。満3歳児受け入れを開始した理由は、2022年には1，2歳児を受け入れるにあたり、低年齢児の定期的なお預かりを開始して、少しずつ慣れていくためでした。**近隣園には満3歳児を積極的に預かっている園が少なかったことも**相まって、満3歳児を開始した1年目の年度末には**25名の満3歳児のお預かりをすることができ、大変好評でした。**満3歳児をお預かりする中で、保護者から、「弟妹を保育園等に預けているため、送り迎えが大変なので、1，2歳児の預かりもしてほしい」とご要望をいただきました。この時には既に1，2歳児を預かる計画で認定こども園移行を進めていましたが、改めて**1，2歳児のお預かりのニーズがあることがわかりました。**

／ 認定こども園移行で苦労した点

償還計画資料

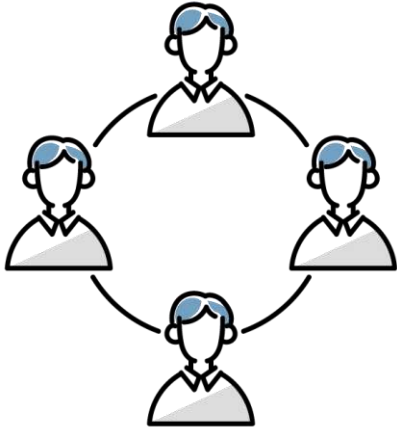
[illegible]

銀行提出用資料作成

当園では内部留保が十分ではなかったため、園舎建て替えにあたり、認定こども園整備に係る補助金と銀行からの借り入れを活用して資金調達を計画していました。銀行に借り入れの相談をするにあたり、認定こども園移行後の収支シミュレーションを作成する必要がありました。しかし、補助金の仕組みがわからず、どの程度収入が入ってくるのか、どの程度人件費が増加するのか等を見込むことができず困っていました。そのような時、偶然、船井総合研究所のセミナーに参加し、本件について相談させていただき、資料作成を手伝っていただきました。本件に関する資料をつくっていただく中で、運営をするのに必要な最低職員数や、加算を取得するのに必要な

職員数等を知ることができ、**教職員採用に関しても非常に参考になる**資料になりました。園舎建て替えまで時間がなかったため、施設型給付金に関して勉強する時間をゆっくり取ることができず、**融資を打診するにあたっては時間がありませんでした**。そのため、既に知見のある船井総合研究所に依頼することで、**自分で勉強するよりも早いスピードで資料を作成していただき**協議を進め、無事**融資を受けることができました**。

教職員理解



認定こども園に移行すると、先生の働き方は変わります。2・3号認定を預かることによる**長期休暇の減少**や、**平日のお預かり時間の増加**等、詳細は省きますが働き方は変わってきます。認定こども園移行にあたり教職員の理解を得ることの重要性は、船井総合研究所のセミナーでも聞いており、慎重に話を進めていました。先生方の疑問の多くは、実際に**自分の身に起こる変化としてはどのようなものがあるのか**ということが多いです。そこで、移行した後の想定される未満児と以上児の一日の流れを図解して説明を行い、先生方の理解に努めました。実際に認定こども園に移行して数ヶ月のうちに、職員から不満の声が上がってきました。それは、早番と遅番の業務量の違い

についてです。当園では早番と遅番の職員を配置することで、11時間のお預かりを行なっております。早番の職員は、出勤→打合せ→掃除→保育準備→受け入れという流れで朝の準備を行なっていました。認定こども園移行後は、朝の預かり利用希望の方が幼稚園の時よりも早く来園されるようになった関係で、掃除や保育準備をする時間が短くなり、業務が圧迫されるようになってしまいました。そのため、保育準備を遅番の方をお願いすることで早番の業務量を減らし、業務バランスを調整しました。このように、認定こども園に移行したことによる園運営の弊害は隠れているため、定期的に教職員の意見を聞きながら改善に努めていきたいと思っています。

保護者理解



園舎解体の取り組み

認定こども園移行を保護者に初めて伝えたのは、移行2年前でした。当園は園舎建て替え後に認定こども園に移行する兼ね合いで少し早いですが、2年前から保護者に説明を行いました。保護者への説明はコロナ禍の影響もあり、書面のみで説明を実施しました。説明と同時に認定こども園移行についてアンケートを実施し、保護者から広く意見を徴収しました。ご質問の概要は右記でございます。

工事中の園庭確保
給食の提供方法
給食費用

低年齢児預かりによる不安
解体工事中の騒音
工事費の捻出方法

当園は特に園舎解体、新築工事の関係で、園庭が使えなくなることに関する不安を抱えていらっしゃる保護者の方が多かったため、近隣の公園や市民体育館を活用することで園庭の代替とする旨を丁寧に説明しました。また、園舎解体は園にとって何度も実施するものではないため、思い出の一つになればと思い、解体する園舎に落書きをする遊びを取り入れました。当園では日頃から絵画・造形遊びに力を入れており、園舎に落書きをするときにも、子どもたちは思いっきりお絵描きを行っており、とてもいい経験になったと思います。また、このような活動の記録をInstagramに残すことで、思い出を振り返ることもできるようにしております。ご興味のある方は是非当園のInstagramを覗いてみてください。

園児が集まる園舎紹介



廊下にある出窓

廊下の出窓は大人にとっては低い位置にありますが、子どもにとってはちょうどいい高さとなっており、狭い場所が好きな子どもにとってとても人気な場所となっています。廊下の出窓は写真の場所以外にも複数あり、子どもたちがそれぞれお気に入りの場所を見つけ、ゆったり生活している様子がよく見られます。園舎建て替えの際には在園児に迷惑をかけてしまうことが多かった関係上、「今しかできない教育保育は何か」を考え工事を請け負ってくれている会社に相談したところ、解体する園舎への落書きとタイルを並べる活動をご提案いただきました。タイルを並べてみると子どもによってはバラバラに並べたり、ある一定の規則に則ってタイルを並べたりと子どもたちそれぞれの個性が垣間見えて非常にいい活動になりました



園児が並べたタイル



屋上園庭



エントランス

課外教室の出入り口の関係上、園が閉まっている時間帯に課外教室を行っているといった時間帯もあるため、正面玄関を閉じることが遅くなり、先生方が帰る時間が遅くなることがありました。園舎建て替えのタイミングで課外教室専用の入り口を2階に設けることで、この問題を解消することが出来ました

第1講座 なぜ今認定こども園移行なのか？

① 幼保業界の市場動向について

幼保業界が迎える今後10年の市場動向について解説します。

② “幼稚園”というブランドで園児を集めることは可能か

保育園が乱立する現在において、“幼稚園”というブランドで園児を集めることができるのかについて解説します。

③ いまのまま経営するリスク

現状のまま大きく経営方針を変えず幼稚園を経営した場合に、永続的な法人運営や、教育理念・方針を達成することは可能でしょうか。幼稚園が抱えるリスクについて解説します。

講師 株式会社船井総合研究所 子育て支援部 教育グループ こども園・幼稚園チーム チーフコンサルタント 高橋叡功

第2講座 幼稚園から認定こども園に移行する際のポイント

① 新制度幼稚園を経て認定こども園に移行するメリット

新制度幼稚園（施設型給付幼稚園）を経て認定こども園に移行するメリットについて解説します。

② 幼稚園で1, 2歳児を11時間預かる方法

認定こども園に移行する際のハードルとして1, 2歳児のお子様のお預かりを認定こども園に移行するタイミングでどのように開始したのかについて解説します。

③ 認定こども園移行の苦労と将来構想

移行に際して苦労した点や、今後の園運営・法人運営の構想について解説します。

講師 学校法人チルド学園 副園長 岩井学 氏

第3講座 認定こども園移行を進めるための具体的な手法

① 移行に向けたスケジュール

園舎を建て替えるのか、既存園舎のままか。建て替える場合補助金を活用するのか等、状況によってスケジュールは異なります。

② 行政は教えてくれない園にとって最適な教職員採用数

認定こども園に移行すると、教職員採用が必要になる場合が多いですが、補助金を最大限受け取るための採用数は何名でしょうか。

③ 移行前に準備しないと間に合わない！ 処遇改善等加算の配分方法

認定こども園と私学助成幼稚園の違いの1つである処遇改善等加算。開園当初からスムーズに配分する方法を解説します。

講師 株式会社船井総合研究所 子育て支援部 教育グループ こども園・幼稚園チーム 佐藤優衣

第4講座 現地視察

① 園舎建て替えの際のポイント

園舎を建て替える際に気を付けた点について解説します。

② 自園給食の始め方

給食室を設置する上でのポイントや外部委託する場合の業者選定のポイントについて解説します。

③ 教室づくりのポイント

壁面装飾を簡単に取り付けるための仕組みや、出入りしやすい出入口のポイント等について解説します。

講師 学校法人チルド学園 副園長 岩井学 氏

講師 株式会社船井総合研究所 子育て支援部 教育グループ こども園・幼稚園チーム リーダー 居村朋哉

第5講座 まとめ講座

① いまのまま経営するリスク

いまのまま経営することによるリスクについて再度解説します。

② 認定こども園移行に向けた具体的な検討事項

本セミナーを通して、認定こども園移行を考える上で検討しなければならない具体的な検討事項について解説します。

③ 今日から始める認定こども園移行

今日から始めることができる認定こども園の具体的な手法について解説します。

講師 株式会社船井総合研究所 子育て支援部 教育グループ こども園・幼稚園チーム リーダー 居村朋哉



学校法人チルド学園 副園長
岩井学 氏

信州大学工学部電気電子工学科卒業、車載の電子基板設計に携わり、その際に新入社員教育やリクルート活動にも従事。祖母の病を転機に祖母が設立した学校法人チルド学園に入職。副園長に就任後は幼稚園からこども園に移行すると共に園舎を改築するなど、より良い保育環境の構築に尽力している。



株式会社船井総合研究所 子育て支援部 教育グループ こども園・幼稚園チーム
リーダー 居村朋哉

東京理科大学理学部数学科卒業後、船井総合研究所に入社。在学中に中学校・高校の数学の教員免許を取得。子ども・子育て支援新制度開始以降、認定こども園移行を中心にコンサルティングサービスを提供している。
その他に、園務改善を目指した提案・実行支援や、園児募集改善サポート、処遇改善等加算配分計画策定支援、教職員向け各種研修等に従事している。



株式会社船井総合研究所 子育て支援部 教育グループ こども園・幼稚園チーム
チーフコンサルタント 高橋 勲

一橋大学大学院経済学研究科修了後、株式会社船井総合研究所に入社。大学院在籍中は公共経済学・財政学や行動経済学を専門にする。入社後は在学中で培った調査・分析能力を駆使して、施設型給付幼稚園・認定こども園移行サポートや、オンラインも併用した園児募集計画策定・実行支援をはじめとする、主に学校法人立の幼稚園や認定こども園への経営全般のコンサルティングに従事している。細やかな数値分析を基にしたコンサルティングスタイルを得意としていて、その精度には定評がある。近年では中期経営計画策定・実行支援のコンサルティングサービスも提供をしている。



株式会社船井総合研究所 子育て支援部 教育グループ こども園・幼稚園チーム
佐藤優衣

中央大学卒業後、新卒で株式会社船井総合研究所に入社。在学中に中学校教諭一種免許状（社会）・高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）を取得し、4年間塾講師としても業務に従事してきた。入社後は主に学校法人立の幼稚園や認定こども園の運営安定化を支援し、Z世代としての強みを生かしたSNSの活用など、Webマーケティングの支援を得意としている。



視察セミナー参加をご検討の皆様へ。

この度本セミナーを企画させていただいたのは、認定こども園移行を行い、園舎を建て替え成功された事例を皆様にご覧いただきたいと考えたからです。

今まさに認定こども園移行を進めている方、これから認定こども園を進める方、いずれの方に置かれましても是非実際の現場をご覧いただき、認定こども園移行をスムーズに進めていただけますと幸いです。

株式会社船井総合研究所 リーダー 居村朋哉

開催 日程

日程：2024年7月25日（木） 申込期限：7月21日（日）

開催時間：13時00分～17時10分

会場・集合場所：たかばりこども園

住所：愛知県名古屋市中東区高針台3丁目701号

最寄りバス停：極楽西徒歩4分、高針台中学校徒歩6分

受講料

一般価格：（税抜）40,000円（税込44,000円）/1名様

会員価格：（税抜）32,000円（税込35,200円）/1名様

会員価格とは、各種経営研究会・経営フォーラム、および社長onlineプレミアムプラン（旧：FUNAIメンバーズPlus）へご入会中のお客様のお申込みに適用となります。

お申込

お申込みに関してのよくあるご質問は「船井総研 FAQ」と検索してご確認ください。

【セミナー情報をWebからもご確認ください】

<https://www.funaisoken.co.jp/seminar/113597>

TEL：0120-964-000（平日9：30～17：30）

※お電話・メールでのセミナーお申込みは承っておりません。

また、お問い合わせの際は「お問い合わせのNo.とセミナータイトル」をお伝えください

お申込みQRコード



無料メルマガジン 購読者募集！

ご挨拶

止まらない少子化、Afterコロナへの適応、夫婦共働き率の上昇、保育所等の空き定員の増大など、保育園・認定こども園・幼稚園・企業主導型保育園等の置かれている環境は大きく変化しています。

このような変化の激しい時代で園経営を進めていくためには、最新の業界動向や成功事例等の情報にアクセスできる環境を整えておくことが大切です。

日本全国で150を超える保育園・認定こども園・幼稚園の事業者様が加盟する研究会を運営している、弊社コンサルタントが発信するメルマガやレポートをぜひご活用ください。

株式会社船井総合研究所 子育て支援部

ここがポイント！

メールマガジン購読者募集！

購読無料！

- コンサルティング現場における成功事例や
幼保業界の最新情報をメールで配信！
- 園児募集、職員採用・育成、制度概要等に関する
資料を無料でダウンロード可能！
- 国内最大級の幼保業界向けコンサルティング
ファームによる時流予測をご紹介！



過去にはこんな内容のメルマガを配信しています！

【保育業界に今後求められるもの】2025年に転換点を迎えて生じる課題

5年後、総合子ども子育て支援拠点化が必須になる時代

評価制度で「評価しない」真・人財育成論5ステップ

▼幼稚園経営▲認定こども園移行 園側のメリット

★気になったタイトルがございましたら下記QRコードからご登録を！★

ご登録はコチラ！（無料！1分で登録完了！）

お手持ちのスマートフォンで右のQRコードを読み取る

- ▷または「保育園・こども園・幼稚園経営.com」で検索！
- ▷なお、「保育園経営メルマガ」と「こども園・幼稚園経営メルマガ」
2つのメルマガを運用しております！

HPにアクセスし、必要事項を入力する

- ▷メールアドレス以外の情報は必要ありません！

▼保育園経営▼



▼こども園・幼稚園経営▼



幼保業界のこれからを読み解く！

経営レポート

経営レポートの一例をご紹介します！

こども家庭庁の発足など、業界が変わる2023年の園経営において押さえておきたいポイントとは？

保育園向け
2023年時流予測レポート

認定こども園・幼稚園向け
2023年時流予測レポート

処遇改善等加算を取得する上で必要なこととそのポイントとは？

処遇改善等加算の取得に向けて



上記レポートのダウンロードはQRコードから！



ここに掲載されているレポートとコラムはごく一部です！

ウェブサイト上には
より多くのレポートを公開中！



下記のQRコードを読み取っていただくか、
検索エンジンで「保育園・こども園・幼稚園経営.com」
を検索ください！

無料
ダウンロードは
こちらから！



保育園・こども園・幼稚園経営.com

検索